

果樹



11月の柑橘園管理



果樹

木蜜 栄次
上島営農指導センター
080-1759-0088

11月下旬より早生温州の出荷が始まりますので、収穫前の貯蔵病害対策を実施してください。

1. 病害虫防除

対象品種	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 温州 中晩柑	使用回数 温州 中晩柑	備考
温州みかん	貯蔵病害	ベフラン液剤25	2,000倍	前日まで	3回 2回	混用
		ベンレート水和剤	4,000倍	前日まで	4回 2回	
共通	ミカンハダニ	スターマイトフロアブル	2,000倍	7日前まで	1回	発生時
		ダニコングフロアブル	3,000倍	前日まで	1回	
		コロマイト水和剤	2,000倍	7日前まで	2回	

※ダニ剤のコロマイト水和剤については2回使用ができますが抵抗性回避の為、1回の使用をお願いします。

2. 温州みかん着色促進及び浮皮防止（早生・普通温州）

	時期	薬剤及び希釈倍数
2回目	10月中～11月上旬 (5～6分着色時)	サルファーズル 400倍 加用 シリカブロー 1,000倍

3. 河内晩柑の落果対策

着色が始まると河内晩柑ではへた部で離層が形成され、特に大玉では落果しやすくなります。着色状況、気象に注意し、低湿予報前には散布を行いましょ。また、落果の多い園地では尿素500倍～1,000倍を加用し、落果抑制効果を高めましょ。(へた部を中心に念入りに散布しましょ)

時期	薬剤及び希釈倍数
11月上旬～ (4～5分着色時)	マデックEW 2,000倍

※マデックEWは年1回の使用となっておりますので、すでに使用された園では使用しないようご注意下さい。

4. デコボン・ポンカンの水腐れ軽減対策

デコボン・ポンカンでは水腐れ軽減のためにジベレリンを散布し、青果率向上を行いましょ。

また散布適期を逃さない様、貯蔵病害の薬剤散布前に単剤で行いましょ。

○ジベレリン液剤40mlの場合

対象品種	薬剤名	使用濃度	1ビン当たりの水量	使用液量	実施時期	収穫前日数
デコボン	ジベレリン液剤	0.5 ppm	400ℓ	50～500ℓ /10a	着色終期	7日前まで
		1 ppm	200ℓ			
ポンカン	ジベレリン液剤	0.5 ppm	400ℓ		着色始期～4部着色期	21日前まで

5. 施肥

施肥時期	品種名	肥料名	10a当たり施肥量
11月上旬	ポンカン・清見・河内晩柑 甘夏・パール柑	熊本果樹肥料10-7-4	3袋
	デコボン	熊本デコボン8-3-3 又はひのくに果樹9-3-3	3袋

6. 秋芽の処理

9月以降に発生した秋芽で緑化したものは1節1本だけ残すようにし、他は欠ぐようにしましょ。

徒長枝や緑化していない秋芽など、邪魔になるような枝は最小限せん定を行いましょ。

花卉



灰色かび病について



花卉

竹川 慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

・ 発生の特徴

灰色かび病は寄生範囲が広く、ほとんどの植物で発生します。低温多湿を好むので秋口～冬の初め頃の気温がやや低く、湿度の高い、雨が多くて日照が不足しがちな時期に発生が多くなります。発病適温は15℃～20℃で結露時間が長くなると多発し、植物体表面やその付近が結露しやすい環境下で発生しやすい。

・ 被害症状

花、茎、葉が溶けるように腐り、さらに病気が進行すると灰色のカビに覆われ、同時に灰色がかかった粉(胞子)を多量に形成し

ます。花では始め、花卉に水滴がにじんだ様な跡が付き、白い花では赤い斑点、色のついた花では白い斑点が多数生じます。病気が進行すると花が褐色になり腐ってきて、やがて灰色のカビに覆われます。

・ 防除方法

灰色カビ病は湿度を好むので水のやりすぎに注意し、なるべく晴天時に行います。そしてハウス内は風通しをよくして十分な換気をします。枯れた部分にも病原菌が残っているので取り除きます。病原菌は害虫の食害跡やしおれた花卉、チッソ過多により軟弱に育った植物組織などから侵入するので害虫を防除したり、肥培管理を適切にすることで予防できます。殺菌剤ではフルピカフロアブル、ポトキラー水和剤、エムダイファー水和剤、ポリオキシシAL水和剤等が花き類での登録があり、なるべく同じ剤は使わないようローテーションでの散布を1週間～10日おきに散布し予防します。
※農薬散布に薬害などありますので営農センターへお問い合わせ下さい。



トルコギキョウ被害



スターチス被害



金魚草被害



施設栽培における省エネ対策



野菜

平田 優輝
下島営農指導センター
080-1729-1639

原油価格が高止まりしているなか、農家の経営にも影響をきたしています。そこで、我が家でも出来ることをもう一度、見直していただければと思います。

1. ハウスの気密性を高める。

- (1) ビニールの破れや隙間を無くす。
- (2) 出入り口の内外にフィルムを張り、冷気の流入を防ぐ。
- (3) 谷部、サイドは、妻面から1.5m程度重ね代をとって、風の侵入を防ぐ。

2. 多重被覆を導入する。

- (1) 可能な限り多重被覆を導入する。
- (2) カーテンが変質したり、破れたりしている場合は交換又は補修する。
- (3) 寡日照、高温、多湿対策として日中に換気や病害虫防除を行う。

3. 夜間に変温管理を行う。

- (1) 夜間の設定温度は、4段サーモなどを活用した温度管理を行う。
- (2) 品質や収量に影響のない設定温度で、管理を行う。

4. 暖房効率を高める。

- (1) 暖房機の熱交換面を清掃する。
- (2) 暖房機のノズルの交換、空気量の調整をする。
- (3) 温度センサー位置は生育ステージに合わせる等適切な

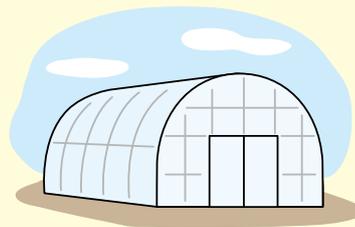
位置に設置する。

- (4) 温風ダクトの配置は、穴の間隔、ダクト間隔を調整する等適正に配置する。
- (5) 循環扇等の利用のより、温度ムラを少なくし、過剰暖房を防ぐようにする。

5. 栽培管理の工夫を行う。

- (1) 整枝、誘引、摘葉等適期管理を行い、採光を図る。
- (2) 品目によって異なるが、夕方適温で、ハウスを閉めて保温する。
- (3) ハウス北側の妻面やサイド部を防寒資材で被覆する。
- (4) 節油のあまり、適温を下回る管理をしない。

※収量が上がらなくては意味がありません。人体もそうですが、農産物も温度変化には敏感です。農産物を守るのは作物を作る生産者です。



ミニトマトとジャンボインゲンの出荷が始まりました!

10月に入り、ミニトマトとジャンボインゲンの出荷が始まりました。

令和3年度、JAあまくさではミニトマト252トン、インゲン36.1トンの販売を計画しています。これから徐々に出荷のピークを迎える予定です。

組合員農家の皆さん!寒暖の差が激しくなってきましたので、お体に気を付けて頑張ってください!!

